

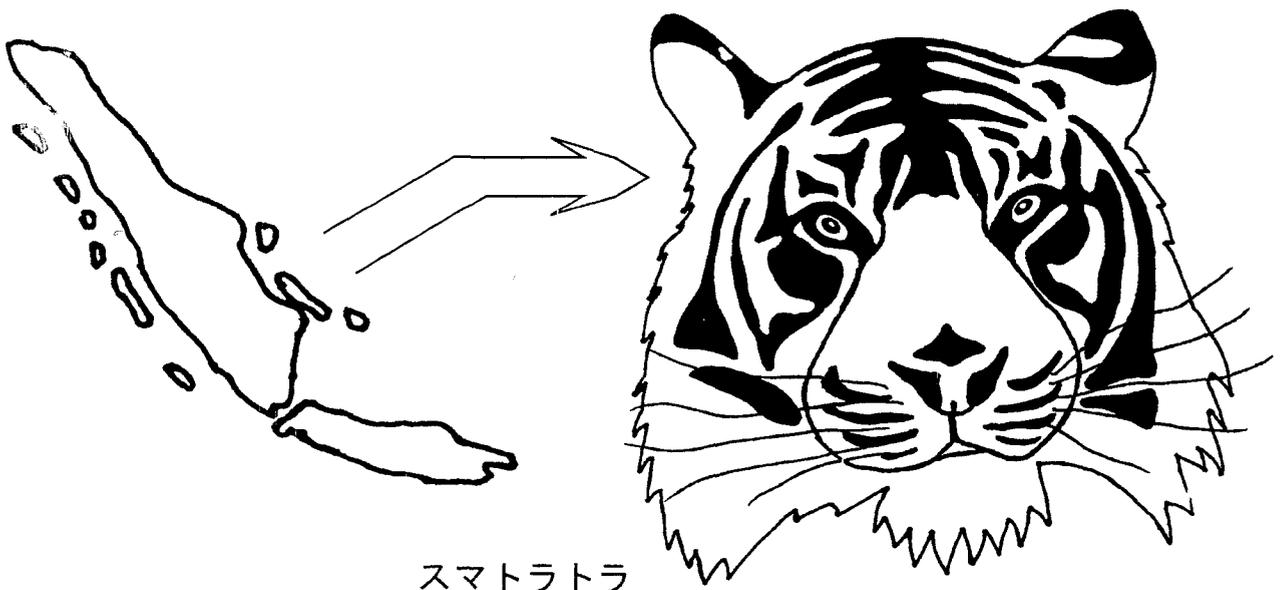
北スラウェシ日本人会  
NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

Tarsius

タルシウス

第18号



スマトラトラ

平成22年1月

## 第18号 目 次

1	新年のご挨拶	ダウニー 玲子	2
2	ご挨拶	大之木英雄	3
3	インドネシアと私とキリスト教	青木 次郎	5
4	青木次郎翁との思い出	坂本 裕保	8
5	その後のNPO活動	川口 博康	12
6	エチオピアについて (その3)	石野 赫	14
7	Face book のすすめ	今泉 宏	16
8	政権交代	長崎 節夫	18
9	在留届及び帰国届等提出の御願い	マカッサル駐在官事務所	20
10	会員名簿		21
11	編集後記		23

## 新年のご挨拶

ブナケン・チャチャ・ネイチャーリゾート  
玲子 ダウニー  
ラファエルダウニー

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

旧年中はいろいろとお世話になり、誠にありがとうございました。  
皆様におかれましては輝かしい新年を迎えられたのではないかと存じます。

2010年を迎えた今年は、インドネシアにはじめて足を踏み入れてから早や20周年であります。

珊瑚礁でできた島、夢にみた南国暮らしを始め、あとは「バラ色の人生」のはずでしたが、一見平和に見える南国でもそこは外国。ビジネスを展開、となったら同じバラでもイバラ道。

いちばん苦しいところを乗り越え、仕事が軌道に乗り始めたかと思えば、こんどは周囲がそうはさせじ、と真実をイバラのごとくねじ曲げ、真つすぐ進もうとすればするほど鋭いトゲが絡み付いてきて歩みを邪魔される。でっちあげ話まで取沙汰される。

信頼していた者ですら、真実を貫くマイノリティー派には目をつぶり、保身のためには平気でうそをつく。

日本の今年の世相をあらわすひと文字は「新」ということでしたが、こちらの場合は「偽」というのが相応しい、そんな辛口の1年でした。

今年は今年で、低迷した経済の深刻さが昨年よりもハッキリと現れる年、と聞いております。それが本当なら、観光業であるわが家はまた別の意味で厳しい1年になりそうです。

皆様のまわりはいかがでしょう。ショッピングモールやホテルが次から次へと乱立しはじめた当地にいと、世の中の不景気というのはあまり感じないことかも知れませんが。

暗いニュースばかりが目立つ今日このごろではありますが、年頭にあたりなんとかまたポジティブ力をチャージして、さまざまな課題に全力でとりくんでいく所存でございます。

皆様の変わらぬご指導をうけ賜りますよう、よろしく御願い申し上げます。

本年も皆様のご健勝で御多幸でありますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。

平成22年元旦

平成22年1月6日

### 御挨拶

マネンボネンボ慰霊碑責任者  
海軍第14期飛行専修予備学生・元山海軍  
戦闘機隊 幹事  
呉水交会会長  
広島護国神社責任役員  
広島戦没者慰霊祭委員会会長

大之木 英雄

ビトゥン日本人会の皆様、2010年、平成22年の新年、明けましておめでとうございます。

1989年、私たち海軍第14期飛行専修予備学生、元山海軍戦闘機隊が貴地マネンボネンボ村に慰霊碑を建設させて戴き、以来毎年慰霊祭を行って参りましたが、この間、貴日本人会には大変なお世話を預かり、心より厚く御礼申し上げます。

昨年8月、メナドで挙行された国際観艦式に日本国海上自衛隊の練習艦隊も参加されましたが、8月16日、マネンボネンボ慰霊碑前で同練習艦隊（司令官・河村海将補）と私共（元山戦闘機隊、呉水交会、広島護国神社）で合同慰霊祭を行いました。その節も北スラウェシ日本人会から多数ご参加を戴き有難うございました。

日本国海上自衛隊練習艦隊のマネンボネンボ慰霊行も之で2回目となりましたが、海上幕僚長や呉地方総監他、海上自衛隊幹部のビトゥン市マネンボネンボ村所在の当慰霊碑に関する認識はすっかり定着し、今後機会あるごとに練習艦隊が慰霊のためマネンボネンボを訪ねて戴くことが期待されるようになりました。その節はまた皆様にいろいろお世話になることと存じますが、よろしく御願い申し上げます。

日本では御存知のように自民党政権から民主党政権に変わり、何かと一変した感がありますが、経済情勢は一向に明るみが見えず、今年は恐らく戦後最も厳しい年になるだろうと覚悟しております。

今こそ戦後日本国民が敗戦のどん底から這い上がったあの気迫と努力を想起すべきだろうと思って居ります。

私たちマネンボネンボの慰霊碑を建立した元山戦闘機隊の同期生はいじれも今年87歳から90歳に達し、今後マネンボネンボにお詣りすることがだんだん難しくなるかと憂えて居りますが、幸い呉水交会（旧海軍の関係者と海上自衛隊のOBがメンバー）や広島護国神社が当慰霊碑に深く関心を持って居りますので、今後も慰霊行事を欠かさないだろうと思って居ります。それにしても北スラウェシ日本人会の皆様にはいろいろ御面倒をおかけすることになりますが、くれぐれも宜しく御願い申し上げます。

今年2010年、平成22年が皆様にとって良い年になりますよう心から祈念してご挨拶とさせていただきます。

(以上)

( 遺稿 )

インドネシアと私とキリスト教

青 木 次 郎

第二次対戦中、満州の八面通というところにいた私は、南方前線への転属を命じられ、最前線であったハルマヘラ島へ向かう途中の昭和19年8月29日、セレベス海を航行中に乗っていた輸送船が敵潜水艦の攻撃を受けて沈められました。乗船していた兵員4000名の内約半数は壮途半ばにして乗船「めきしこ丸」と共にセレベス海の海底深く消えてしまったのです。やっと離船できた者たちは、救命胴衣ひとつを頼りに海上を漂流すること36時間余り、やっと救助されて上陸したのがインドネシアのメナドという港町であったのです。その後一年この地に駐屯していましたが、敗戦によってビートンというところに集結させられ、捕虜生活をする事になり、あわせて約2年間この地で生活することになったのです。

メナドという町は、インドネシアのスラウェシ島の北の端にあるミナハサ州の首都で、フィリピンにいちばん近いところです。ここの住民は、他のインドネシア人と比較すると肌の色は白く、先祖はモンゴルから渡来してきたのだと称して、顔・形も我々日本人に非常によく似た人が多く見かけられます。

インドネシアの宗教は、全人口の90%がイスラム教徒といわれている中で、この地域は逆に90%がキリスト教徒で、残りがイスラム、ヒンズー、仏教の人たちなのです。そのため、この地域の人たちミナハサホスピタリティーとも呼ばれていて、とても親切で人なつっこく、たいへん来客好きな人たちなのです。特に日本人に対しては非常に友好的であります。それは、昔からたくさんの日本人との交流があり、また第二次大戦のとき、この地域は最初日本海軍の落下傘部隊の降下によって占拠された所で、海軍の軍政下におかれていたためであると言われていています。海軍の人たちは現地の民衆をよく理解し、「何事によらずこちらの考えを押し付けることなく、なべて現地の要求をよく聞くべし」という方針のもとに軍政がしかれていたということです。またこの地域は最後まで敵の上陸がなく、各部落が戦場にさらされなかったということもあって、落ち着いた生活がなされていたと思います。

とかく戦時中は多くの日本の軍人も官吏も、現地住民の要求など無視して、すべておしつけることしかしなかったという中で、メナド駐留の海軍部隊がこのような方針をもって占領地を治めていたということは立派であったと思います。特にミナハサ地方はキリスト教徒の多いところで、住民の生活指導のため海軍軍政部は日本キリスト教団に対して、施政官のアシスタントとして日本人女師の派遣を要請し、日本から数人の牧師がメナドにきておりました。それはキリスト教の布教のためということではなく、当時敵国であったアメリカ、イギリス、オランダ等がキリスト教国であるために、キリスト教を信じている者は皆敵国人であるという考えをもつ日本人が多い時代であったので、インドネシアでも特

にキリスト教徒の多いこの地域を治めていくには、まず、キリスト教を理解しなければならなかったからではないでしょうか。

またインドネシアでは、総人口の90%の信者を持つイスラム教の人たちの中には、キリスト教に反感を抱いている人が多く、ボルネオ島において開戦当初、日本軍の進攻を利用してキリスト教徒の弾圧が計画され、日本軍への密告によって2,000人以上のキリスト教徒が殺戮されるという事件(金田著「拒絶の理由」)が起きたばかりであったので、同じ過ちをくりかえさないようにということもあったのででしょう。いずれにしても日本は宗教的なことでは差別しないということを知らしめていく必要があったのだと思います。

当時この地に派遣された東京鳥居坂教会の浜崎次郎牧師は、当時を回顧してつぎのような手記を残しておられます。

「ミナハサでは学校でも病院でも特にキリスト主義という必要はなく、すべてキリスト者でした。師範学校でも、農学校でも、男女各学校でも、もともと教師も生徒もキリスト者でした。私は今までの80余年のうち、大正7年に神学校を卒業以来、50余年の教会と伝道を顧みて、戦時中のミナハサの人々と過ごした約2カ年ほど、悔いのない生き甲斐を覚えたことはありません。初めから終わりまで全く摂理的な神のお恵みであったと感謝のほかありません。ときおり「ドミネハマザキ」と呼ばれましたが、そんな敬語でよばれるとこそばゆさを感じました。たぶんオランダ人が牧師に対する敬語として呼ばせていたのででしょう。海辺の漁村や山間の小部落まで、馬車も通れない細い道は馬にのって巡回したものです。至る所で歓迎されました。私はただ教会の議長だのアシスタントを連れて行き、「日本の憲法第28条では国民は信教の自由がゆるされており、日本の敵国がキリスト教国であるからといってキリスト信者を誤解したり、迫害することは間違いである。そのために私は皆さんが迷惑したりすることのないように派遣されてきたのです。」と私の使命を述べるだけで彼らは安心し、歓迎されたというわけです。」と。

私は当時のこのような思いやりがあってこそ、今のミナハサ地方における友好、交流が保たれてきたのであったと思っています。

こうして振り返ってみると、戦中、戦後を経て現在にいたるまでの、北スラウェシにおけるキリスト教の趨勢にはすばらしい進展があることを覚えます。先にも述べたように、住民の90%のキリスト教徒がいて、キリスト教国ともいえるような社会を形成している、そんなミナハサにおいての戦時中、兵隊としての生活でしたが敵機の空襲さえなかったら本当に天国にいるといっても過言でなくらい平穩そのものでした。

現地の人々との交わりも民族意識をすててお互いが信じあうことのできた生活であったと思っています。そのため遠く時を経た今でも、戦友たちの中にはミナハサは第2の故郷であると言っている者が多いのもわかるような気がします。それは、海没から助け上げられ、再びこの地に生き返ったというだけでなく、ここで過ごした2年間の現地の人々との交わりの中に、いつしか親子兄弟のようなつながりが生まれたためではないかと思っています。

私は終戦後日本へ引き揚げてからもこの地のことがわすれられず、いつかは戻ってこの

地で暮らしたいと思っていたのですが、帰国後の20年間は敗戦日本再建のためただ夢中で働き、やっと生活も安定してきて再びここメナドに対する思いが強くなり、かつての戦友たちに声をかけて一緒にきたり、ひとりで出かけてきたり、も何十回も行ったり来たりして、今はとうとうメナドに家を建てて、一年の半分くらいをメナドで過ごしております。はじめのうちは戦争中に知り合った現地人もたくさんおりましたが年々その数は少なくなり、反面、あたらしく知り合う人がたくさん増えて本当に故郷に帰ったような気持ちですごしております。

(完)

青木次郎翁（通称、オパジロ）との思い出

坂本裕保

オパ次郎さんが亡くなって3ヶ月が過ぎました。

今回、青木次郎翁と私のかかわりで今までの思い出、人となりをと思い、寄稿しましたが、全部書き切れません。たった10年でしたが、それほどオパとの関わりは多かったということです。これから寄稿するものは、ほんの一片です。

オパのことを少しでも思い出しながら、読んでいただければ幸いです。

私がマナドのインドネシア人とかかわりを持つようになったのは、1997年でした。

当時私はジャワにチリメンジャコの買い付けのため度々渡航しており、私の町には不法就労者が、それもミナハサからの人々が1000名以上就労しており、NHKの報道もあり、この町は日本でインドネシア、ミナハサ人のコロニーがあるとして有名になっていました。私がインドネシアに行っていることを知った友人が、インドネシアに日系人はいないかといってきたことが、そもそもの始まりだったのです。

マナド空港に降り立った時、驚きました。ジャワの空気とまったく違う、「何て明るいんだ」以来、マナド病に取り付かれるのでした。

当時、既に大洗町に4つのキリスト教会が出来ていましたが、1998年に日系人が来るようになり、オパはGMIMの協力を得て、日系人中心のベツレヘム教会を設立しました。その関係で日系人の世話をしていた私も、オパと知り合いました。

私より以前にマナドへ行き、SINODE-GMIMのパレンコアン会長に面識のあったオパが日系人からの依頼で、大洗町に教会を作り、私以上にすべてのミナハサ人から信頼を得ていました。オパの渡航ビザはGMIMからの招聘状であり、名誉牧師の称号を与えられミナハサ各地で説教をしておりました。

これが縁で、私はマナドへ行く度、マラライアンのオパの家へ行くようになりました。私は、日系人の身元調査を経て、マナドと日本人の係わり合いに興味を持ち、戦時中この地に駐留した日本軍の軌跡をオパから聞きたく時間があれば伺い、時にはアッシー君になり、その道中、話を聞きました。

オパによると、オパは昭和13年に19歳で志願兵となり、中国に派兵され、昭和19年8月に、フィリピンからメキシコ丸に乗船し、セレベス海で潜水艦に撃沈され、36時間の漂流後、日本軍に救助され、マナドへ上陸、ソンドルの陸軍に再編入され、軍曹として兵役、昭和21年4月ピトンでの捕虜隔離生活を経て、日本へ送還されたということです。

その後、私には考えられないような壮絶な人生経験をし、75歳になって、自分の会社を処分、マナドへ来るようになりました。

そしてオパが戦後、マナドを訪れたとき、日本で知り合ったマナド人に通訳として紹介されたのが、Y,Nであったといいます。

そして、Y.Nの将来と自分の宿舎を考えYNが予定していた土地に家を建てました。

オパはミナハサ人が好きでした。また戦時中好意を持っていた女性がいたとオパの戦友から聞きました。

しかしオパは決してそのことは話しませんでした。いつも笑って逃げられます。

そして、現在までサリオに幼稚園小学校を建設寄贈したり、日本中の教会から送られてくる古着を寄贈したり、

またサンギへでは戦時中の憲兵隊によるサンギへ事件の遺族に会い、犠牲者墓地整備の依頼を受けましたが、叶わず、私がそれを受けました。

オパが残した足跡は、日伊交流に大きな功績を残したといえます。

オパから私が学んだことがあります。

「人を許す」

私の今までの職業は、「生き馬の目を抜く」様な世界でした。

頬を打たれれば、打ち返します。それはプライドを保つ手立てでも在りました。

傍から見ていて、オパはミナハサ人に随分愛されまた騙されました。多分オパは知っていたのでしょう。

ひとつの例として、

ミナハサ人が、「日本へ遊びに行きたいから一緒に行っていいですか?」「招聘状書いてください」私の知る限り二桁のミナハサ人が観光ビザでオパと一緒に入国しました。そして入国するとバイバイ。

このミナハサ人の後ろには、カワンコアンの女性が利益を得て、ほくそ笑んでいます。マカッサルの領事はオパに、「インドネシア人が優しくしてくれるのは、日本に行きたいからだよ」と。

それを知ったオパは、止めました。自分の信用をなくしていたからです。

でも、彼たちを怒らなかつた。

もしこれが自分だったら、どうだったかと考えます。私は決して許さないでしょう。

「右の頬を打たれたら、左の頬を出せ」オパはそれを実践しておりました。

最後まで、やさしい日本人でした。

でも、オパは私に相談してくれました。「周りのみんなは私の払う金額が高いというけどどうなの?」やっぱり心配していました。

でも当事者には、決して言わなかつた。

昨年 2009 年 3 月がオパにとって最後のマナド訪問になってしまいました。

自分の誕生日をマナドの人たちと祝いたい。其の時まで治療に専念していたオパの健康は、改善されつつあったのですが、マナド滞在後、疲れと最後の想いが叶ったからか、また病床に着くようになってしまいました。

最後まで、青木次郎翁はマナドのことを案じておりました。

今、私はオパの最後の望をうけ、トモホンの PPBJM ミナハサ日本語学校の再開を計画しております、しかし現在の GMIM 執行部と PPBJM のニコ牧師は裁判所で争っている間柄で、PPBJM に決して友好的ではありません。やむなく私はいつでも PPBJM が再会できるように、タフナ市に LPK を設立し、GMIM の再考を待っております。

そして、タフナ市で 70 名の生徒に日本語を教え、その利益で、サンゲル事件の犠牲者の墓地整備をオパの名の下で行う約束をいたしました。

それが、オパの恩に報えるひとつの方法だと信じているから。

#### 自己紹介

氏名 坂本裕保 (サカモトヒロヤス)  
生年月日 1950/8/12 現在 59 歳  
職歴 (株)にんべんいち 代表取締役 (50 歳で引退)  
P.T NINBENDO-AGUNG presiden  
大洗町水産物仲買人協同組合理事  
大洗青年会議所副理事長  
大洗水産物加工業協同組合青年部長理事  
NPO 特定非営利活動法人 マナドネットジャパン副理事長  
大洗町食品加工協同組合参与  
YAYASAN MATAHARI TERBIT MANADO 相談役  
住所 茨城県東茨城郡大洗町  
家族 妻、美代子 1 男 3 女 孫 4 人

青木次郎 大正 8 年 3 月 25 日生まれ  
19 歳で志願兵、運転免許があったため関東軍野戦自動車廠移動修理班に属す  
昭和 19 年 7 月ごろ帰国、釜山からフィリピン、マニラをへて、輸送船メキシコ丸で移動中、マナド沖にて潜水艦に撃沈され、漂流後ハルマヘラからマナドに行き先変更、ソンデル第三七五大隊岩本部隊本部つき下士官として兵役。

帰国後、印刷会社に就職、結婚後結核を患い、生活保護を受ける。

一男一女をもうけ、闘病中キリスト教徒に改宗、回復後印刷会社を興す。

1996年マナドへ渡航、マラライアンに居宅を建設、年の大半をマナドで過ごす。GMIMから名誉宣教師の称号を得られた。

2009年10月9日没

妻 青木 澄

長女 青木由美

長男 青木 治

## その後のNPO活動

皆さんお元気にご活躍のこととお察し致します。

私もお陰さまで昨年古希を迎えることができました。またNPOを立ち上げ3年が経過しました。

スタート時、参加者は10名でしたが12月末103名と今年の実績を達成することができました。

ピトンにお住まいの皆さんにもお願いし10名ほど参加して頂いております。

今年も1月24日ピトンを訪問します。その節はよろしくお願ひします。目的は「第2回インドネシア研修旅行」ミナハサーピトン市の皆さんと友好を深める旅です。

さて、私どもの活動の主な行事は「鯉節in御前崎2009」です。昨年に続き2回目となります。

8回シリーズが基本となっていますが今年は「聞き書き講座」を加えて挑戦してみました。

今回はこのことについて報告します。

### 「聞き書き講座」の概要

#### 【目的】

かつて、「鯉一本釣り」と「鯉節製造」は御前崎の主要産業であった。男たちは黒潮に乗って北上する鯉を釣り上げ、女たちは浜に水揚げされた鯉を天秤棒で担ぎ駆け足で鯉節工場まで運んだ。

「聞き書き講座」では、そうした時代を知らない若い世代が、当時の鯉節産業を担っていた方々から直接お話を伺いながら記録を作成する。こうした少し遠回りに見える作業を通じてつぎのような目的が達成されることを期待している。

1. 地域の先達の生き方に直接ふれる。
2. 地域社会の生きた歴史を具体的に学習することで、現在の御前崎が過去とのつながりの上にあることを実感する。
3. 実感をベースにした学習の成果を、自ら文章化していく作業により知的な蓄積とする。
4. 話し手のみなさんにも、若い世代に語ることで、かつて従事した職業の意味や価値をあらためて見直していただく。
5. 地域社会のこれまでを担った世代とこれからを担う世代が、目に見える作業を通じて交流した記録から、さらに交流の輪を広げることが可能となる。

#### 【参加者】

(1)講座参加者：中学生・高校生・大学生の約 35 名

(2)話をしていただく方々：13名

(3)講師・案内人：宮内泰介(北海道大学教員)

赤嶺淳(名古屋市立大学教員)

藤林泰(埼玉大学教員)

\* 一般の方の参加は、最終日午後の「聞き書き講座報告会」のみ参加できます。

【日程】 2009年8月27日(木)～8月30日(日)

【成果】 名古屋市立大学赤嶺ゼミの協力による『聞き書き講座報告書』(仮)としてまとめる。

8月30日 予定通り無事終了することができました。

今回、初めてこのような事に挑戦したのですが良しにつけ悪しきにつけ幾つかの問題点と沢山の感動をもらいました。

聞き手は中学生・高校生・大学生の混成チームでした。大学生がうまくリードしてくれました。

この読み書き講座を終えて私の胸を熱くしたのは学生の皆さんがお年寄りを尊敬するようになった事とお年寄りの皆さんは昔、自分が全力でやっていた仕事のことを存分に話せた満足感と誇りを取り戻すことができたことを感じる事ができたことです。これがきっかけとなり学生さんの中にはもっと話を聞きたいと名古屋から会いにきていました。

地域の学生さんに参加してもらいたいと思って学校にも呼びかけたのですが以外にも学校の方針・規則が優先した中でこのような企画は受け入れられてもらえず遠方の学生の皆さんにお願いしました。参加できない理由を聞く中で学校教育が何かすごく複雑になっていることを感じました。地域のためにと思っていたことが理解してもらえなかつたことが悔やまれます。規則づくめの中での学校教育、教える先生も大変だなどの実感です。私は自分の子供の教育さえ家内任せで遠洋漁船でカツオとまぐろを追っていました。

今回、卒業依頼訪れた学校で受けた感想は「自分たちが通っていた学校とは大分離れているな」ということです。50年以上も経っているのですから当然ですよ。

余談になりますが、私が関係する「御前崎地区地域活性化協議会」の主な運営資金は国からのものです。やったことも無い申請書類を揃えやつの事でOKが出て活動開始一年が経過し、よちよち歩きながら何とかやれるとの感触を得た矢先新政権が打ち出した「事業仕分け」にかかり今後の助成金は絶望的となっています。

この「事業仕分け」をテレビで見ている思い出したのは30年前、中国に駐在していた時に見た人民裁判です。丁度、文化革命が終焉に近づいていた時代でした。新政権は革命と言っていました。蓋を開けたら前の政権よりももっと酷い事となっています。政治家が信用されるのは何時の事なんでしょうか。ビトン駐在中はインドネシアの汚職は酷いと実感していましたが、この政権の様をみていると、とても恥ずかしくなります。

年の瀬の忙しい中での走り書きです。長崎さんお許し下さい。皆様のご健康と素晴らしい新年をお迎え下さいますよう遥か御前崎の池からお祈りしております。

**手火山ネット:** <http://www.npo-tebiyama.org/>

### エチオピアについて (その3)

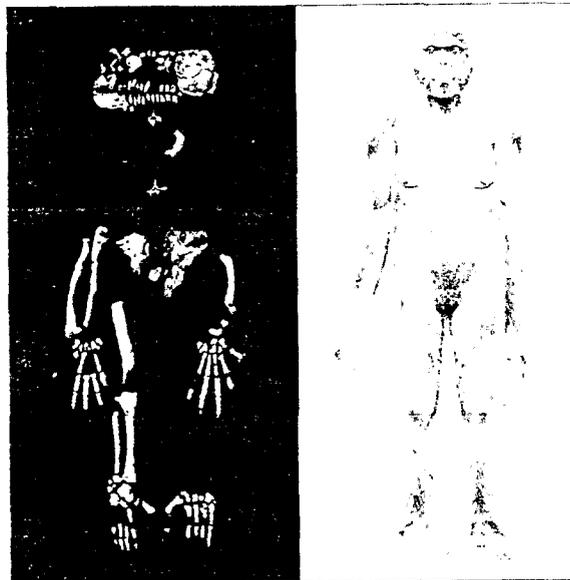
石野 赫

エチオピアは「人類の発祥の地」と言われております。しかし、それを確定付けるような新発見が、昨年10月新聞紙上を賑わし、また世界的に権威がある米国科学誌「サイエンス」は昨年度の10大ニュースのトップにこの発見を取上げました。

それでは、その新聞発表からお伝え致します。また、添付した写真は、左が発見された化石で、右はそれを復元して出来上がった初期人類想像図です。

「440万年前のラミダス猿人、骨格を復元（最古の人類は森で暮らし、二足歩行も木登りも）朝日新聞 2009・10・02 （松尾一郎）」

最古の時期の人類は森で暮らし、木登りをする一方で、二足歩行も可能だった。東京大総合研究博物館の諏訪元教授らの国際的な研究グループが、約440万年前の人類、アルディピテクス・ラミダス（ラミダス猿人）の化石から全身像を復元することに成功し、生活の様子がわかった。約400万～100万年前に草原で暮らしていた猿人アウストラロピテクスよりさらに古い人類像が、初めて描きだされた。



ラミダス猿人は、諏訪教授らが92年にエチオピアで歯の化石などを発見し、94年に英科学誌「ネイチャー」で発表した。その後同じ地域から36体分、110標本が見つかった。復元された固体は94年から破片の状態で発見され、約15年かけて復元と分析を続けてきた。その成果で、最古の人類の生活などをめぐる教科書の記述が書き換えられる可能性がある。

頭蓋骨がきゃしゃで、犬歯が他の個体より小さいことから女性と推定され、「アルデイ」の愛称が付けられた。身長120センチで、体重50キロ、脳の大きさは300～350ccと見られる。脳は、アウストラロピテクス（500cc程度）よりも小さく、チンパンジー（350～400cc）に近い。

骨盤は、チンパンジーより丈が短く地上での二足歩行が可能で、こぶしを地面につけるチンパンジーのような歩き方はしていなかった。足裏に土踏まずがないなど、アウストロピテクスより原始的な特徴も備えており、木登りもしていた。

犬歯は、チンパンジーなどが持つ武器としての犬歯に比べると、アウストロピテクスなどと同じく小さかった。雌雄の体格差も少ないため、現代人のように雄と雌とがペアで生活する社会構造へつながる特徴だという。

他の歯も含めた分析からは、硬いものや草原性の植物はほとんど食べないものの、森の中の果実や葉、昆虫などを食べる雑食性だったこともわかってきた。

これまで全身に近い人類骨格は、「ルーシー」の愛称を持つ約320万年前のアウストラロピテクス（これもエチオピアで発見＝石野記）のものが最古だった。ラミダス猿人より古い人類化石には、チャドで見つかったサヘラントロプス・チャデンシス（約700万年前）、ケニアで見つかったオロリン・ツゲネンシス（約600万年前）などがあるが、化石が部分的で姿や生活についてはよくわかっていない。

諏訪教授や米カリフォルニア大バークリー校のティム・ホワイト教授を中心とする今回の研究グループは、これらの化石の特徴がラミダス猿人と似ていることから、アルデイの姿が最古の人類像を代表するものと考えている。

今回の発表は11本の論文からなる。同時に発掘された動植物の化石なども分析し、自然環境や食性まで幅広く研究・考察されている。

以上が、新聞に記載されていた内容ですが、「サイエンス」誌はこれを「化石が発見されたのは1994年だが、47人の研究者が10年以上かけて詳細に分析した」と粘り強い研究を評価していました。我々の祖先が、440万年前でかなり進歩していたことに驚いております。

ではまた次号にて、

(エチオピア、その3、完)

## Facebook のすすめ

PT. Arta Samudra

今泉 宏

ちまたで Facebook なるものが爆発的に流行っている。これはインターネットの中のサービスの一つである。主な目的はインターネットを通じての家族や友人との交流である。「そんなことをしなくてもメールで十分」、「プライバシーの流出が心配」など特に日本人はこのようなサービスに対して批判的な考えを持っている人が多いようで、実際に日本人で Facebook を使っている人は少ないようだ。日本ではたびたび「出会い系サイト」を利用した犯罪などが問題になっているということも日本人がこのようなサービスに対して警戒をする原因の一つになっているのではないだろうか。

で、何が面白いの？目的は？とたいていの人は疑問に思うようである。私自身も最初、妻の兄（インドネシア人）に勧められ同様な質問をした。「う～ん、長い間音信が途絶えていた昔の友人とネットを通じて出会えたりすることかなあ」こんな返事が返ってきたがそれを聞いて当時の私は Facebook というものに対してまったく興味を抱かなかったばかりか、この義兄はネットで女の子と出会って浮気とかしてるんじゃないかと疑ったものである。（この人はほんとはまじめ一辺倒で浮いた話などほとんどない人です。念のため。）

そんな私が Facebook に興味を持ち始めた理由とは、ある時、このサービスの原型はアメリカの大学のクラブの部員同士がネットで連絡を取り合うことを目的として始まったという話を耳にしたからである。私の学生時代はラグビー部に所属していたのだが、食堂の2階にボックスルームというスペースがありボックス席の一角をクラブごとに占領することができ、そこには雑誌や漫画などがテーブルに散乱していて講義の空いた時間や休み時間にそこへ集まりウダウダと過ごすことができた。その中にボックスノートというものがあった。そのノートにはクラブの連絡事項を書いたり、好き勝手に悩みや夢、面白い体験談などを書く者もいた。今、私が Facebook を使ってみた印象として何かに例えたとしたらこのボックスノートがちょうどしっくり当てはまるようだ。

そこで北スラウェシ日本人会の皆様に提案です。

皆で Facebook やりませんか？

美味しいレストランや珍しい料理、果物などを発見したとか、犬や猫の子供が産まれて引き取り手を探しているとか、複雑なインドネシアの法律の相談、北スラ日本人会の行事予定など、いろいろな情報を共有できたら面白いのではないのでしょうか。

このサービスは基本的にもともと知っている人同士が実名、写真入で参加するものなので訳の分からない人が乱入することもほとんどないと思われます。お互いが相手を友人として確認しあわなければ他人が除き見ることはできません。それぞれ相手が分かって交流していることなので誹謗中傷などの書き込みも抑制されるでしょう。

紹介はこれぐらいにして、まずは実際に **Facebook** に参加してみましょう。手順は次の通りです。

1. メールアドレスの作成。すでにある人はそのまま使用する事も可。情報の流出が気になる人は別のアドレスを適当に作成。
2. **Facebook** にアクセス。
3. メールアドレス、パスワード、年齢などを登録。
4. それぞれのプロフィールが作成される。ここで写真を登録しておくとも相手があなたを見つけやすくなります。外国人の友人がいる人はローマ字表記にしておくほうがよいでしょう。
5. 友人を検索。ちなみに私のプロフィールは **Hiroshi Imaizumi** で検索すると出てきます。数人出てきた場合は写真で判断する。見つかったら友達リクエストを送信する。コメントは書いても書かなくてもよい。
6. リクエストを出した相手があなたを確認するとその友人のプロフィールを見たりコメントを書き込んだりすることができるようになります。
7. 逆にリクエストを受け取った場合は自分がプロフィールを見せてもよい相手であれば確認ボタンを押し、そうでない場合は無視ボタンを押ししてもよい。相手を確認した後でも不都合が生じた場合などには削除してもよい。
8. 後は自分の掲示板にコメントを書き込んだり写真をアップロードしたりと好き勝手に使えばよい。それに対して友人たちが感想などを書き込んだりしてくれる。それを夜な夜な一人でニヤニヤしながら読むのが楽しいのである。その逆に友人のコメントや掲載した写真に対して面白コメント考えるのに睡眠時間を削って無駄な時間を費やすことになるのである。

2009年の私に関する2大事件は、インドサットと契約してNHKの放送を観るようになったことと、犬を3匹も盗られたことです。

私は日頃からテレビを観ることにはほとんど興味がなく、まじめにテレビと向き合うのは大相撲の千秋楽、プロ野球の日本シリーズ、甲子園の決勝戦くらいのもので、テレビより犬や子供や雀と遊んでいるほうが楽しく、健康的でもあると思っています。

それがどういう心境の変化か年のせい、昨年8月末には選挙関連番組に興味を示して8月30日衆議院選挙の開票即票番組もたっぷりみる羽目になりました。やはり「政権交代」というテーマはノンポリ代表のような私にも響いたようです。

民主党の圧勝というか自民党の自滅というべきか、いずれにしても日本国の政権交代が成ったのです。日本国の一大事件です。

日本が一流国家になるための条件の一つは、政権を担当できる複数の政党があるということでしょう、その意味では昨年8月の政変は、日本国が一流国になるためには一度は通らねばならない関門といえますが、さてこのまま一気に二大政党並立の時代へと進めるかどうか。

政権が代わっていろいろ新しい試みがなされているようですが、ある日のニュース番組で恐ろしい、腹の立つ光景が目に入りました。来年度予算概算要求の「事業仕分け」のニュースです。「仕分け人」とかいう派手な雰囲気のおばさんが上ずった調子で「なぜ世界一ですか、2番でも3番でもいいのではないかと叫んでいます。その場面だけ出たニュースですから前後の状況はよくわかりませんが、テコップとアナウンサーが伝えるところによるとスーパーコンピューター開発予算の仕分け風景だとのこと。たぶん文科省の担当官が予算要求の説明で、「世界一のスーパーコンピュータを開発する」と言ったのを受けて、「世界一のモノ（システム）をつくるのにこれだけ金がかかるなら、予算を減らして2番3番をめざしてもいいのではないか」ということでしょうか。

「あのおばさん、失礼、仕分け人さんはなにもわかっていないな」というのがわたしの第一印象でした。「なにもわかっていない」というのはコンピューターのことをわかっていないということではなくて、日本国のことを何もわかっていないということです。日本という国の中での「科学技術」の立ち位置をわかっていないのではないかと。そして科学技術のレベルというのは、金（予算）をこれだけつかえば1番に、これだけつかえば2番になれるとワカッテいるのではなかろうか。

いや、もしかしたらあのおばさんは科学技術が日本経済を支える重要な土台であることをよく分かっているかもしれない。わかっていながらテレビのカメラが入ったために急に恰好をつけてあのような発言になったかもしれません。無駄遣いをする悪い役人をバ

ツタバッタと切り倒す必殺仕分け人を演じてしまったのでしょうか。

今回の「事業仕分け」をみて公開処刑のようだと感じた人が多いようです。川口さんも中国の文化大革命騒ぎを思い出したそうです。私は新政権の政治ショー、パフォーマンス、スタンドプレーと感じました。テレビカメラが拾った町の声には、「女の仕分け人は弁が立つしカッコよかった」というのもありました。

テレビ時代の戦術ということでしょうが、今の政権（民主党）には、おいしそうなスローガンだけをかかげて一般大衆をペテンにかけるような手法が多いように感じます。選挙用の「マニフェスト」とかもそうですが、この「仕分け」もそのとおりです。見世物の仕分け作業も金のかかることでしょう。無駄遣いはやめましょう。ついでに国会議員の歳費も仕分けに掛けて縮小し、浮いた分は科学技術振興予算にまわしましょう。政権が代わったから方針が変わるのは当然だ、ともっともらしいことを言っていますが、前後のみさかひもなく「チェンジチェンジ」と革命気分で行っているようで、非常にあぶなっかしい気がします。

今の政権のジタバタぶりみていると、内申書の虚偽記載で合格したけど進級があやぶまれる学生のようなようです。入学試験の内申書（マニフェスト）にバラ色の夢をならべました。それはそれでいいのですが、その裏づけとなる根拠、計算式を示さなかった。選挙期間中からそのことを指摘する声はかなりあったのですが、大衆の多くはうまくひっかかりました。しかしそれでめでたく政権交代となったわけですから日本のためにはよかったかもしれません。問題は今後の対応でしょう。現政権は基礎学力（体力も）不足。二大政党の一翼を担うはずであった自民党も重症の患者で衰弱著しく、再起できるかどうか。

よく考えてみれば政党のレベルというのは国民のレベルとイコールであるわけですから、政党のだらしなさを嘆くまえに国民一同がみずからを省みるべきことかもしれません。

日本の夜明けはまだ遠いぞ。

新年早々柄にもなく政治がらみの話になってしまいました。

新年を迎えるにあたって会員の皆様のご健康・ご発展をお祈りいたします。

平成22年正月 長崎 節夫

2,097

※調査の実施にあたり、関係者の皆様にはご協力頂き、ありがと  
。

## 2. 在留届及び帰国届等提出のお願い

近年、海外に居住する邦人数の増加に伴い、海外で事件・事故  
巻き込まれるケースが増加  
しております。万一、皆様がこの様な事態に遭われた場合には、  
」をもとに皆様の所在地や  
緊急連絡先を確認し援護活動を行っています。

当館では平素より在留邦人の皆様に「在留届」の提出をお願い  
ですが、実際には未提出の  
方が多数おられ、また、帰国時や住所・電話番号の変更時にその  
方も多いため、在留邦人の  
皆様方の正確な数や状況が必ずしも把握できていないのが現状で  
は、今後の当館の援護活動  
や選挙登録事務等在留邦人の皆様へのサービスを円滑に実施する  
届」の早期提出につき改め  
てご協力をお願い致します。なお、未提出の方におかれましては  
「在留届」を、住所等の変  
更または帰国する（ご家族が帰国された）場合には「在留届記載  
帰国届」を必ずご提出方お  
願い致します。

### 在留届とは

- ・ 3ヶ月以上滞在される場合に必要です。
- ・ 旅券法第16条（外国滞在の届出）により、外国に住居または  
ヶ月以上滞在する人は、そ  
の地を管轄する日本国大使館、総領事館等に在留届を速やかに提  
付けられています。
- ・ 在留届は提出者のプライバシーを守るため、厳重に管理されて
- ・ 在留邦人の皆様が事件や事故、災害にあったのではないかと  
思  
在留届」があれば、安否の  
確認、緊急連絡、救援活動、留守宅への連絡等が迅速に行えます
- ・ 「海外で事故にあったのでは」といった留守宅からの安否照会  
留届」があると早く確認で  
きます。
- ・ 当館で旅券の切替、戸籍・国籍関係事務、各種の証明事務等の  
受ける場合にも「在留  
届」は利用されています。
- ・ 海外にいる在留邦人の皆様のための長期的な教育・医療等の施  
する際の基礎的資料とも  
なっております。

### 提出方法

1. インターネットを利用して提出 <http://www.ezairyu.mof>
2. 当館領事窓口で直接提出
3. 郵送又はFAXにて当館宛送付

### 在留届に関するホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/zairyu>  
[http://www.id.emb-japan.go.jp/visaj\\_7\\_1.html](http://www.id.emb-japan.go.jp/visaj_7_1.html)

# 会員名簿

会報「タルシウス」電子版では不特定多数の方が閲覧するため、セキュリティ上の観点より会員名簿は非公開とすることとしました。

(2014年04月20日)

上記理由により会員名簿が非公開になりましたことをご了承ください。

- 会報タルシウス（製本版）には従来通り名簿は掲載されます。
- 各会員に対しましての個別の、または、尋ね人などのお問い合わせは、

直接日本人会へお問い合わせください。

該当会員に連絡後、会員より直接連絡するか該当会員の同意のもとで、

連絡先をお知らせすることといたします。

# 会員名簿

会報「タルシウス」電子版では不特定多数の方が閲覧するため、セキュリティ上の観点より会員名簿は非公開とすることとしました。

(2014年04月20日)

上記理由により会員名簿が非公開になりましたことをご了承ください。

●会報タルシウス（製本版）には従来通り名簿は掲載されます。

●各会員に対しましての個別の、または、尋ね人などのお問い合わせは、

直接日本人会へお問い合わせください。

該当会員に連絡後、会員より直接連絡するか該当会員の同意のもとで、

連絡先をお知らせすることといたします。

## 編集後記

新年おめでとうございます。今年もよろしく御願いたします。

昨年、日本国内では深刻な経済不況という状況のなかで「政権交代」という大きな出来事がありました。

北スラウェシ日本人関係でも昨年はいろいろありましたが、会員最長老のオパ・ジロウ一、青木次郎師が神に召されて向こうの国へと旅立たれたのは残念なことでした。昨年の3月、メナド市内のホールで90歳の誕生日祝いを盛大に催されたときは、まだ張りのある声で挨拶されていました。「5月にまた来るから」と帰国されたあと急に症状が悪化したようで5月再開の約束は成りませんでした。ミナハサの地をこよなく愛した青木師を偲んで、師が最後に本会報に寄稿された「インドネシアと私とキリスト教」(第11号2006年)を再録しました。坂本さんによる追悼文と併せてお読みください。

昨年5月、メナド市内で「世界海洋会議」が開催されました。その流れで8月には国際観艦式が行われ、その流れのなかでビトゥン市マネンボネンボの元山記念霊園で慰霊祭が行われました(8月16日)。元山戦闘機隊関係者、練習艦隊指令官、幹部候補生330名、軍楽隊、弔銃隊、ビトゥン市長、地元住民と小学校の児童、日本人会会員など霊園頂上にぎっしり詰めた中、広島神社神官の差配で慰霊の式が執り行われました。霊園責任者の大之木英雄さんからは新年のご挨拶をかねて慰霊祭についての御礼の一文が寄せられました。

東京の石野さんからエチオピアについての原稿、御前崎の川口さんから「手火山」の活動報告をいただきました。表紙はいつものとおり羽根井さんです。今年の干支にちなんで登場したのはスマトラのトラ次郎です。皆さん寒い日本国に住んでいますが、今年も元気に活躍されることを祈っています。

暑い北スラウェシ在住の我々も元気です。ブナケンの女王・玲子さんはみかけによらず苦労されているようですが、今年はずっと飛躍の年になるでしょう。今年の敢闘を期して、今号の巻頭の辞は玲子さんの「新年のご挨拶」で決まり!

北スラウェシという限られた土地に住んでいても、現実にはお互いが簡単に会えるような状況ではないので、つい疎遠になってしまいがちです。身辺のできごと、仕事上の問題など気軽に話し合ったり愚痴をこぼしたりできる機会がもっとあったらいいな、と思っていました。今泉さんの提案に大賛成です。

平成22年1月15日 長崎